

歴史的な名器お披露目

濱さん購入の久元さんが演奏 スタインウェイ

諏訪

諏訪交響楽団音楽監督、常任指揮者を務める日本精機工業社長の濱一さん。諏訪市中洲がワイーンで購入した1939年製のピアノ「ハン



久元祐子さんの演奏でお披露目されたスタインウェイ・タイプD日本精機工業

ブルグのスタインウェイタイプDのお披露目コンサートが5日、同社サロンで開かれた。濱さんと親交のあるピアノ・久元祐子さんが演奏。関係者が聴講し重厚な音色に聴き入った。ピアノは「ワイーンの歴史的な文化財」といわれ、コンサートには無料で貸し出し、「ワイーンの文化を諏訪で引き継ぎ、音楽の発信地にした」としている。

久元祐子さんの演奏でお披露目されたスタインウェイ・タイプD日本精機工業

た久元さんと同行。偶然訪れたピアノリペア名門店で、同ピアノと04年製の「ベーゼンドルファー モデル210」と出会い、「音楽の神様が授けてくれた縁」と、その場で2台の購入を決めた。いずれもワイーンのコツェルトハウスで活用され、世界的ピアノリストの巨匠が活用した。

お披露目したスタインウェイの鍵盤は象牙とコクタン。常に良好な状態が保たれていた。久元さんはベートーベンの「エリーゼのために」、ショパンの「ノクターン」、シューマンの「トロイメライ」など作品の背景や作曲家のエピソードを交え、優雅にダイナミックに演奏。演奏後は「ピアノは生きもの。巨匠の魂や気をもらい、様々な音色で心のひだを表してくれる」と語った。

聴衆の1人でインドネシア

んは、「素晴らしい名器を諏訪の地に持ってきたことに敬服。久元さんの心に染み入る演奏で魂が入った」と余韻に浸っていた。

ピアノとサロンは無料で貸し出し、調律は使用者に負担してもらおう。問い合わせは日本精機工業（電話53・3400）へ。（宮坂卓苗）